



道

学校の教育目標
「ともに学び、
心豊かで
たくましい
子供の育成」

* オリンピックに学ぶ夏休み *

(写真と本文は関係ありません)

校長 宮島 和生

先日、映画「ヒノマルソウル」を観てきました。長野オリンピックのスキージャンプ競技を支えた25人のテストジャンパーの話が映画化したものです。テストジャンパーは、早朝から夕方まで、代表選手が安全に競技できるよう、何本も飛んで確かめる仕事を任されています。降雪が激しいときには、助走路に降り積もった雪を滑りながら踏み固め取り除きます。降雪の具合で滑走時の速度が落ちてしまい、怪我につながることもあるそうです。

テストジャンパー25人の中には、リレハンメル大会団体で惜しくも金メダルを逃した西方仁也選手がいました。また、当時まだ正式種目になっていなかった女子ジャンプ競技で、オリンピックを目指す女子高校生や難聴という障がいを負いながらもジャンプ競技に打ち込む選手ら、希望や挫折等様々な思いを胸に秘めた選手が集まっていました。頂点を目指して競技に打ち込んできた方ばかりです。「テストジャンパーになるために練習してきたのではない」「何のために自分はテストジャンパーをやっているのか」多くの葛藤の中、日本の金メダル獲得のために、25人全員が悪天候の中無事に飛ばなくてはならないという条件を突き付けられます。一人一人のジャンパーがソウルとパッションを合言葉に、ジャンプ台に立ち滑走していく姿に感動しました。この25人のテストジャンパーのおかげで競技は再開し、日本は見事悲願の金メダルを獲得しました。実は、本校の坂大徹教頭もこの25人のメンバーのうちの一人であり、「ヒノマルソウル」を自ら胸に込め日本の金メダル獲得に貢献した人物です。

来週末からは、東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されます。選手とともに頂点を目指した方や競技の裏方の努力に、親子で思いを巡らせながら日本人選手の活躍を応援してみたいと思います。子供たちが、選手たちの姿から目標に向かって真剣に打ち込むことの素晴らしさや大切さと、自分を支えてくれている周りの人たちの存在を感じ取ってくれることを期待しています。

あと数日で子供たちが楽しみにしている夏休みです。オリンピックで活躍する選手のように、目標や

目当てをしっかりと持ち、自分が決めたことに毎日努力して実りある41日間となるように過ごしてほしいと思います。そして、ご家庭や地域の皆様には、元気で底力のある「東部っ子ソウル」を支えていただきたいと思います。よろしくお願いします。



ミニこ集会の一コマ